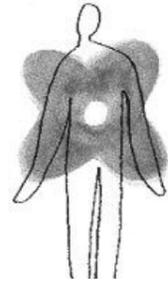




地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生きるコミュニティづくりの情報を発信する

いのちの森通信



公益財団法人
いのちの森
文化財団



Vol. 37
2016. Jul

平成28年07月10日発行
編集 木賊 萌

発行/ 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ http://inochinomori.or.jp Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

天に地に

塩澤みどり

天に地に 月満ち
そそり立つ 岩山
いのち吹く 大樹
幾億年の 記憶もつ
太古の森が めをさます

天に地に 星めぐり
鳥やけものや 小石や風
流れる水や 光る月
言葉もたぬ ものたちの
森のひびきが 伝える

幾億年の はじめから
やがて生まれる 人間の
人のおろかさ かなしみを
太古の森は 知っていた
生まれる前を 思いだせ
忘れたことを 呼び醒ませ
言葉に霊が 宿るとき
めざめた心に 陽はのぼり
天地に満ちた 静寂に
ときの光は ふりそそぐ

天に地に 陽は満ち
幸う国が 開くとき
稲穂の黄金は 風にゆれ
いとかるやかに 楽しげに
太古の森が うたいだす

ほほえむだけで 知っている
みつめるだけで なつかしい
こころとかした 平和の祭祀
めぐる銀河で また会おう
花や小鳥や けものたち
流れる水や 光る月
太古の森の 風たちと
いまわのきわで 交わした言葉
めぐる銀河で また会おう

それは あなたかわたしだったか

心を高め、 心の在り方を学ぶ 「生き方働き方学校」

光の水自然農園(水輪ナチュラルファーム)では、夏本番を迎えて野菜の収穫、定植、種まき、発送など実習に忙しい日々を迎えています。毎朝の朝礼では空手の一本突きの後、稲盛和夫氏の京セラフィロソフィーを輪読し、稲盛和夫箴言集を読み、いのちの森の理念を唱和した後、それぞれの思いを発表し共有するところから始まります。

今日は「創意工夫をする」という項目をとおして日々の実習の中でこれをテーマとしてどのように取り組むのかについての提案がありました。漫然と何かをするのではなく目的意識を持ち、より具体的なテーマを実験として積み重ねていくことで、今まで身につけてきた過去の意識を進化させていきます。

畑では様々な学びがあります。何よりも生き物たちとの一年を通しての関わりは心の成長にとつての成果は大きいのです。もちろん知識や技術を学ぶこともありますが、それ以上に自らと他者(人、自然、い

持続可能な地球社会を目指して

塩澤研一

(いのちの森文化財団副代表理事)



のち、道具や機械などのかかわりを通して心を高めていくことが何よりも大きいのです。学校で学んできたことは知識の域を出ず、それ以上に深めていくことが少なくなってきた現代社会において、この「生き方、働き方の学校」の役割は将来世代に対する私たちの責任性としても極めて重要だと考えています。

今後の地球変動と地球の未来に 対する 対策と課題

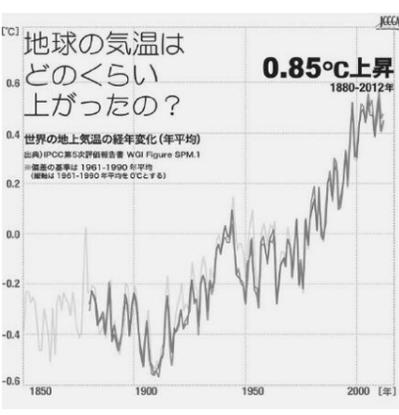
さて、昨今地球の変動についての記事が新聞紙上を賑わしています。しかし意外と周りの人たちにこの話をしてもあまり関心がありません。

今回の熊本地震に大きく関係している中央構造線や静岡一糸井川のフォッサマグナなどの周りに走っている活断層は、日本が地震大国であることを物語っているのですが、大半の人は「他人事」の

ように感じているのでしょうか、あまり関心がないように思います。東日本大震災や熊本地震、過去には阪神大震災や中越地震など様々な地震や火山の噴火による災害が頻繁に発生してきているにも関わらず、自分が遭遇するとは、ほとんどの人は思ってもいない事には驚きです。

加えて降雪などのわずかのアクシデントにも関わらず、スーパーから食料や日用雑貨が一日で消えてしまうほど危うい経済状態にも

「のどもと過ぎれば熱さ忘れる」のが現代なのでしょう。表1-2100年には、地球の平均気温が最大5.8℃も上がると予想されている。



25年ほど前にアメリカのNASAから人工衛星のデータをもとにした「向こう百年の地球の変動」という大きな世界地図が「いのちの森」に送られてきました。日本には百枚が送られたとのことですが、そのうちの最後の一枚のことでした。この地図によれば日本は地震と火山の噴火により国土の八割が消滅するという驚くべき地図で、もちろん日本だけでなく世界のおよそ百万都市は大半が消滅することになり、加えて北極点のシフトが明記されています。

これは全地球に一辺五百キロの三角点にポールを立て、地球の地層の変化を人工衛星により克明に分析し、未来を予測したものです。この分析方法は阪神淡路大震災の後、アメリカに習って日本の気象庁が一辺五十キロの三角点にポールを立て、日本の地層地殻の変動を解析し、その結果に基づき日本の地殻変動の将来を分析し、それをNHKの教育テレビで放映したことがあります。

私も興味深くこの番組を見ていたのですが、それは中越地震を予想したものでした。この放映から半年後に中越地震は発生しました。この三角点は先の東日本大震災

でかなりのズレが生じたこと、昨年の6月に3年かけて気象庁が修復したとの記事が新聞にかなり大きく報道されたのですが、皆さんはご覧になられておられますでしょうか。富士山の噴火についても世界遺産に登録されるや否やこれ以後の報道は一切消滅してしまいました。

いま地震については首都直下型、東海などという狭い範囲での地震ではなく様々な構造線に連動する活断層により複合型の震度八から九の巨大地震が向こう30年以内に発生する確率は70%であるとの新聞報道があり(6月28日)、内閣府はこれに対し大震法を40年ぶりに見直す有識者会議を設置すると発表しました。

いづれにしても地球規模での大きな変動に対し、人類が生き延びていく様々な対策を立てておくべきだろうと考えています。

将来世代に対する 今なすべき 責任ある行動

このいのちの森で行っている活動は将来世代に対する責任性として我々世代がなすべきことを25年前から取り組んでいます。

農業に於いては循環備蓄型の自然農法を推進しておりますが、現在の日本の農業においては種苗の大半は外国からの輸入ものであり、またF1種が多く、世代生成ができていない状況です。

固定種の普及と備蓄を進めていかなければなりません。また向こう3年間の食料の備蓄を推進し、循環型の農業技術も同時に普及しつつ一次産業の復活を私たちの課題として取り組んでいく必要があります。当然、農薬や化学肥料などの人工的なものを使える時代の終焉を予測しての動きです。

また原子力エネルギーから自然エネルギーへの転換も大きな課題



様々な学びがある自然農園での共同実習

だと考えます。先に述べたように地震大国日本に於いてこのように原子力に依存したエネルギー政策には大いに問題があります。地震大国でなくとも現在の人類の技術では半減期2万年と言われる放射能汚染についての手立てはほとんどないと考えたほうがよいと思います。

現在の日本のどここの場所においても放射能汚染がゼロという場所はありません。2年前ほどになるがいのちの森を訪れたAさんが、日本はすでに放射能汚染が進んでおり、バリ島に移住することにしたそうです。ところが実際に行ってみたら、日本よりはるかに放射能の汚染が進んでおり、原発や原子力に関係するものが無いにも関わらず日本より汚染が進んでいるという事になります。

このことは地球がすでに放射能ばかりでなく、様々な複合的な汚染が急速に進んでおり、経済の繁栄を求め、自らの首を絞めていることに気づかず将来世代に対する責任性を放棄していることでした。

食糧やエネルギーの問題ばかりではなく、高齢化や少子化、加えて核家族化の中で人間としての世代生成が行われず、基本的な生活習慣の欠如、教育の荒廃、自己中心的な考え、ネット依存、IT化による様々な精神的な歪みなど問題を挙げれば暗い未来しか見えてきません。

さて、このような世相の中でどのように将来を見据えていかなければならないのでしょうか。このいのちの森には約30名近い方たちが社会復帰を目指して日々自己研鑽に励んで

います。しかし、昨今感ずる事は、現代社会に於いてこの人たちが「復帰」できるような社会なのだろうかという点とである。「他者とは関わりがない」「お金の中心の世の中」「社会のルールや道徳、哲学がない」「愛の欠乏」など、どこを見ても希望が湧いてきません。

**共に助け合える
コミュニティづくりの
重要性**

私たちはもう一度、一人一人が心から繋がらう小さなコミュニティから生き方や働き方を再構築していかねばならないのではないのでしょうか。そこには自給自足を目指した「生産」「加工」「エネルギーの確保」など一次産業の再生と意識教育が不可欠となります。やがて、金融社会などのバーチャル社会は崩壊していくのではないだろうかとの予感があります。

今やヨーロッパ社会においてもイギリスのEU離脱を含めグローバル社会から民族的な意識が移行しつつあるのではありませんか。本来は民族国家を超えたところの人類としての調和が求められているの



全員で集まり、和気藹々と祝う誕生会

ではないかと思えますが、今の世相を見るにつけ排他的な流れになりつつあるように感じてしまいます。

この人間の弱さにつけ込んだ宗教教義のセミナーなども横行し始めているように感じますが心しなければなりません。その中でイタリアのトリノにあるダマヌールというコミュニティは持続可能な共同体として国連で2005年に表彰を受けています。一次産業から二次産業、三次産業まで実践しながら様々な学びや教育を推進しています。



大自然の中のダマヌール

**本物を求め続け、
たくさんの人に
支えられた42年間**

このいのちの森も私たちが重い障害を持つ娘を42年間育ててくる中で本物を求め続けて現在に至ります。大勢の人々に支えられここまでくることが出来ましたが、将来世代が自分たちのいのちが輝いて生きて行けるような世の中になれたらと願いつつ、日々の地道な実践を続けています。

私たちは飯綱山の美しくも厳しい大自然の懐に抱かれて小さなコミュニティ的な生活を通して自己の成長をめざしています。どうか、老いも若きも、ハンディーが有ろう

がなかるうが共に生きあう社会に向かつて歩を共有頂ければ幸いです。

**祖先が残してくれた
大いなる叡智**

冒頭の塩澤みどりさん(公益財団法人いのちの森文化財団理事長)の「天に地に」の私たちの「存在のいのち」がワネス(全宇宙的なひとつの存在)のものであることを指し示しています。

振り返ってみれば、我々の人類の祖先は幾多の困難を乗り越え、現在の子孫に多くの生きる知恵と大いなる遺産を残してくれました。氷河期の厳しい寒さを乗り越え、大地震や火山の爆発などの天変地異による大災害、愚かな戦争行為や殺戮の歴史、疫病の大流行などに知恵を出し合い、幼

いいのちを守り、心を一つに、寄り添いながら生きてきました。私たちのDNAにはこの35億年連続と受け継がれてきた祖先の叡智が、刻み込まれています。



快晴の信州飯綱高原の自然農園

**植物が世界の
中心となる日が来る**

**ダマヌール日本代表
ジュゴン・クスノキ**



**人間は
ホリスティックな存在**

近年の世界規模での自然環境の破壊と汚染状態を見るにつけ、未来に向けて人がよく生きていくことが困難になってきていることを認めざるを得ません。それを象徴するかのように、年々癌のような治療困難な疾患に罹患する人の数は増え、今や2人に1人は癌にかかる統計的に言われています。

自然に囲まれた環境の良いところで暮らす人であっても、地球の気候圏内の風や雲や海流の動きを共有していることに変わりなく、地球のどこかで放射能汚染があれば、たとえその場所が地球の裏側であったとしても、地球で共存するあらゆる生命に、悪影響をもたらすことは明らかなのです。緑豊かなイタリヤアルプスの麓にあるダマヌールであっても、世界規模の異常気象や汚染と無縁な生活を送ることは不可能です。ですから、ダマヌールでは、各在住民が何年も前から、独自の研究室で遺伝子レベルの検査を受け、自分の遺伝子の中にある潜在的な疾患のリスクについて知り、各自が責任を持って発症する前から熱心に予防に努めています。予防医学の中で、特に重要なのが、食生活の改善です。「安全で季節の変化に寄り添った、自分

たちのテリトリーで育てた自然な食物を積極的に摂取する。」ということがあります。また、定期的に宇宙の根源的命のエネルギーを補給する「プラノヒーリング」を受け、毎日寝る前に10分間の深呼吸を行うことも大切に行います。ダマヌールでは、人間は肉体、マインドや微妙なエネルギーのからだ、そして魂から成り立つ、ホリスティックな存在だと考えます。どの部分に不調和があっても、「健康な状態」とは言えません。

私たちの不調和は、まずオーラと呼ばれるエネルギーの部分に現れます。オーラと呼ばれるエネルギーのからだは、実は14層ものエネルギーから構成されていて、宇宙に存在する様々な次元や肉体と繋がっていることが、ダマヌールの研究で検証できました。オーラは、肉体の周りにあって、エネルギーの盾のような役割を果たしています。オーラのバランスを整え、滋養を与え、命の源泉的なエネルギーを補給することは、バランスを整った強いオーラを維持することを助け、外からや内からの影響によるバランスの崩れを放置せずに整えることで、重篤な病気を予防することにつながると考えます。

それ以外に、あらゆる情性を避け、変換することに柔軟かつ積極的に関わり、日常的に

同じ色の服や下着を身につけないことも心がけています。なぜなら、我々の14層のエネルギーの体は様々な波長や流れ方や方向性を持っていますので、周りの光や色の波長によって常に影響を受けるものだからです。偏りなく、様々な色の波長の滋養が得られることは、よりバランスが取りやすい条件と考えます。

**一緒に食べる食事は
エネルギー交流の場**

また、食事の時は、できる限りひとりで食べることを避け、仲間とともに、肘の触れ合う距離で、交流を持ちながら食べることで、各自が持つ異なったエネルギーをオーラを介して交流することにつながり、そのことによりエネルギーの滋養を得ることにつながると考えます。できるだけ、皆が楽観的で肯定的な考えで生きることは、皆のためだけに良い効果をもたらすのです。調和的なエネルギーが枯渇していると、悲観的な気持ちになりやすいのです。

また、食事をする場所は、明るい光によって、食物の色が映えるように心がけ、色の滋養効果も大切にします。食物が貴重だったかつての日本の食卓では、色とりどりの食器や季節の花や野菜によって彩りを添える工夫がなされてきました。これは、食事で肉体を養うだけではなく、同時に精神やエネルギーの部分を養う必要があることを心得ていた、古人の知恵だとも言えます。

古代の精神的黄金時代には、人間がほぼ「神様」と言える様な意識の進化を遂げていたという記録が秘教的知識

の道に残っています。その時代には、人間が6万種類以上の食物を食べることができていたため、物質的にも精神的にもバランスが取れていた。そのため、病気になる人がほとんどいなくなった。現代では、物質的な市場の都合によって、栽培される食物の種類があまりに限られていて、6万種類はおろか、何十種類かの異なった食物を手に入れることすら大変な現実があります。ですから、偏った食生活ゆえに、バランスが取れにくい時代に生きていても言えます。私たちの食べる行為は、実は肉体を養うだけではないのです。動物の肉や魚やお野菜といった食物も、実は元々生き物ですから、それぞれにオーラがあり、意識や感情も記憶もあるので

植物の持つ偉大な力



かつてアマノールで行った実験では、植物が学習することもできるし、テレパシーで交流することもできることが実証されました。また、切り取った葉っぱのオーラのエネルギーは、数日間はそのままだけで維持され、その後徐々にエネルギーが弱くなつて失われていくという事実を確認しました。ですから、私たちは、食べるという行為を通じて、実は肉だけでなく、食物に宿る微妙なエネルギーによって、オーラや精神といった部分も同時に滋養されているのです。昔の賢者は、「その人が何を食べているかを見たら、その人がどんな人かがわかる。」と言いました。食物によって私たちの精神的な部分も滋養されているわけですから、それは当然だと思えます。

自然農産物を通じて、様々な命の存在に気づき、大切に命を育むことは、人間の意識の進化にとって、とても大切な要素です。なぜなら、この宇宙のなかに存在する様々な命の存在を理解し、慈しみ、自分の意識と「異なった形の命」の意識をつながり、交流していくことを実現してこそ、人間の意識を広げていくことを可能にするからです。動物であれ、植物であれ、自然界のエコシステムの中で生きています。このエコシステムにおいて、私たち人間は、様々な植物や動物を食する事で、物質的にも精神的にも滋養され、魂を磨いて進化していくために生きているのです。大切に育てた植物や動物のなかには、育ててくれた人が与えてくれた思いやその人のエネルギーの波動が記憶されます。また、大切に思っている手をかけてくれた人に対する感謝や喜びを細胞のなかに記憶として宿しています。そして、人間が食物として食べた後に、また種をまいて自分たちの種を維持させてくれるという、人間に対する信頼も持っています。

農業はお金を得るための手段ではない



こういうことから、農業は決して単なるお金を得る手段や産業であってはならないのです。もし、植物や動物が命の尊厳抜きに、ものとして扱われ、汚染や苦痛や恐れや怒りに満ちた体験によって存在せざるを得ない状況で過ごしていたら、私たちが彼らを食する時にとりこむエネルギーの波動は、否定的で調和のないものとなります。これでは、調和的に生きて、魂が進化するために滋養を得るはずが、とんでもない不バランスを排除していくために多くのエネルギーを使わざるを得ないのでは無いでしょうか？それは、体内に毒を取り入れ、肝臓や腎臓に多大な負担がかかる、もしかしたら、生きる事が不可能になってしまいかもしれないということ置き換えて考えることができます。

植物との交流が共存への道につながる



アマノールでは、植物の世界との交流を常に行っています。健全な環境の森や畑には、物質的に様々な命の存在が共存しています。それぞれのいのちが、固有のエネルギーや波動をもたらし、豊かさを生み出しています。そのいのちが共存している森や畑は、豊かなエネルギーが宿っていると云えます。そして、そういった環境の中には、アストラルな次元の様々な自然の精霊たちも

いのちと繋がっている自分に気づく



私たちが人間には、偉大な可能性や様々な感覚が備わっています。なのに、物質偏重の不調和に溢れた社会の中で、その可能性を眠らせたままにしているために、窮屈な小さな世界で生きているという閉塞感に苛まれるのではないのでしょうか？人間の意識の高さや進化の実現は、どんなに有名な人になるか、どのような仕事をするかとは無関係だと思えます。それより、自分が生きているという事は、どれほど多くの命と繋がっているかということに気がつく、自分が今ここに存在することが、宇宙全体の偉大な調和であり、自分と繋がっている全ての命の存在が同様に貴重なのだという自覚から、他の命が必要としていることを喜びと心を込めて提供できることこそが、その人の魂の進化につながると言えます。自分が

喜んで共生します。

みどり溢れるアマノール植物と共生しています

健康に生きるための持続可能な社会

2000年、フィレンツェの語学学校にてイタリア語を学び、イタリア語通訳となり、日本におけるアマノールの秘教的知識やホリスティック医療や人間の潜在能力を覚醒させる為の研究成果を一般向けに提供する為のセミナーの企画、通訳、翻訳を行う。

1994年〜98年、英国留学中、英国在宅医療サーピスやホリスティック療法についてのリサーチを行う。古代の叡智を求めて、世界の様々な聖地を訪ね、シャーマニズムに関するリサーチも行った。

2004年、アマノールコミュニティ連合体の在任A市民として社会に参画しながら、秘教的知識の道で精神的な探求やヒーリングの研究を継続している。現在、アマノールのメイディーションの学校の公認インストラクター、アマノール公開大学の公認インストラクターとして活動中。

公益財団法人いのちの森文化財団では以下の公益目的事業への寄附金を募集しています

- ①「高齢者のための生きがい創造基金への寄付」
- ②「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
- ③「東日本大震災被災地の子どもたちの教育を支援する活動(保育園へのお野菜支援含む)」
- ④「いのちの森の会費(一般寄付)」

※当財団への寄付金及び会費は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。また一部の自治体では、個人住民税の寄付金控除の対象となります。(詳細はお問合せ下さい)

【ご支援の方法】

- ▼郵便振替用紙にてお振込みの場合は、振替用紙に寄付先①～④をご記入の上、お振込み願います。
- ▼銀行振込み・電信振込みの場合は、財団事務局までホームページ・メール・FAX・電話(1ページ目参照)にて寄付先①～④をご連絡の上、お振込みをお願いいたします。

【お振込み先】

- ゆうちょ銀行振替口座 00520-3-42181
- 八十二銀行 本店営業部 普通 1093531
- みずほ銀行 長野支店 普通 1991794

いずれも名義は「公益財団法人いのちの森文化財団」

私は縁あって、いのちの森水輪の青少年育成センターを担当させていただき、7〜8年目になります。

とりわけ、心の未熟性や、障害を患った方々との向き合いを通じ、最近、改めて実感していることを、この機会に振りかえってみる」というテーマに置き換えて述べてみます。

まず、飯綱高原という人里を離れ、大自然に包まれた環境の下にあって、無化学肥料、無農薬を旨とする自然農法という農業との関わりを中心に、合わせて併設されている宿泊業の職場実習社会参加トレーニングを通してお客様により良い空間を提供することが、入所されている青少年の日課となっています。

しかも、テレビやラジオ、インターネット、新聞、携帯、ファッション、性産業といった情報との接触手段を控え、**外界と距離を置いた環境下での、規則正しい生活が、彼らが日々成長していく基盤ともなっています。**

喧嘩と騒音と昼夜逆転の不規則な生活習慣、不摂生な食生活と外食や添加物による偏った食事など、心と体の不調、テレビやパソコン、電磁波を浴びた健康被害、不適切な情報の洪水といった自然から離れた人工的な現代という病理を持つ社会から距離を置き、自然とのふれあいを中心とした自然を生活の中に取り入れ、(誰にも分つても) ならない虚しさや孤独や不安からの解放、実習を通して仲間とつながり合う喜びなどは人が人として成長するため、不可欠な条件を備え、自分を取り戻した心が病を癒していきます。 **本当の自分を取り戻していく、心が病を癒していく**ということ、**自然環境の中のいのちの乱れが本来のリズムに調整されていく**プロセスでもあり、また来訪者としての人(お客様)との関わりも、自ずと世間話しや雑談をひかえ、世間が忘れてしまっている貴重な自然環境の中に身を置く客観的な視点から本質を見極める力や、真の礼儀を学ぶ心が磨かれ育ち、人への関わりが薄かつ

た自分の中に、他者を見出し、他者への思いやりの心を育てることができるようになっていきます。

更に、毎日毎食のグループミーティングや、勉強会を通して相互に切磋琢磨する対話交流の時間も設けられています。つまり、いのちの森水輪は自然環境を背景に、他者との生きた関わりを通して、「人としての内的にも外的にも成長を促す母壤」であるともいえましよう。

ここで、その具体例を紹介してみよう。ある日、ご両親に付き添われて、A君は、いのちの森水輪に滞在することになりました。

その人となりや、知的水準自体に積極的な問題はみられませんが、生い立ちをうかがいますと、ご両親はともに仕事に多忙で、幼少時から、ゲームをあてがわれ、そのゲームの世界のみで育つてきました。

自らを、「ゲーム脳」と称し、中学入学頃には、人としての自律が求められだす段階にもかかわらず、学校生活にはなじみず、「お月さまでも、自分の手でとれる」と、真顔で話す姿に、まさに「幼児的万能感」の世界に留まっている実情が、うかがわれました。人間の成長は、母親をはじめとし、父親や友人等、他者との生きた相互関

今まで体験してこなかった “人が良くなる”という事実を、 いのちの森水輪で 目の当たりにして感じたこと



巽信夫 先生
(いのちの森クリニック院長)

係を通じ、時間をかけて段階的に育まれてくることは、発達心理学の教えるところでは、

A君の場合、いのちの森水輪での生きた人間関係を通じ、数年以上かけて、人としての成長課題と向き合いつつ、本来の姿に立ち返り始めました。その際、現実世界とのかかわりに際し、その一歩を踏み出すことに不安があったため、薬物療法の併用も必要でしたが、あくまで補助的な活用でした。

もとよりA君の良くなった背景として、それまで培ってこられた“みどり”さんとの、厚い信頼関係が基盤となってきたことは、いまでもありません。現在は大学生活の第一歩の学びを始めています。

この方は、物事を自分で決める事が出来ず、親にすずめられて来所されました。Bさんは軽度のメンタル障害のため、すでに専門医の外来加療を受けておられた方です。ご家族も同伴され、“みどり”さんと私の同席のうえ、3時間以上かけ合同カウンセリングを続けました。Bさんの根底にある大きな不安感を理解しつつ、話を聞くことを主として向かい合いました。

当初は、幼少時の母親との関わりに課題があり、自分の存在が受け入れてもらえなかったというのが、その主旨でした。しかし、実際にお母さんとも会い、Bさんの現実参加困難に、母親として心配され、Bさんの回復にさまざまな角度から、きめ細かく、気づかっかけておられる実状が伺えました。そして次第に、幼少時のBさんなりの“心的外傷体験”が根強く潜在し、その思い込みで、がんじがらめにされている実情が浮かび上がってきました。

た。このカウンセリングの後半に、偶然にも受験されていた学校から合格の報が届きました。その際も、実際に進学するか迷っておりましたが、全く嫌でない限り、“とりあえず自己判断に即し、一歩前に進むこと”を、みどりさんとともに助言し、ご本人なりに、了解されたようでした。

このように、根底にある大きな不安を受け止めつつ、自己決定に向けての“補助的サポート”をすることも、いのちの森水輪のカウンセリングの一つです。

いずれにしろ、メンタル障害の治療や、とりわけ、その成長促進には、“当事者と支援者双方の基本的な信頼関係の構築”が基本となりますが、いわゆる出てきている症状だけをターゲットにした5分間診療では、簡単に築けるものではありません。

いのちの森水輪で何故良くなったのか、良くなった人が大勢いる成果の背景には、他の所では、にわかに見出しがたい、まさに24時間体制で同じ釜の飯を食べながら、寝食を共にし相互の信頼関係の構築に基づく真の生き直し、ひいては“成長に向けての全人的な場”の提供こそが、ここいのちの森水輪にはあるといえるでしょう。

言い換えれば、いのちの森水輪は心理療法(個人カウンセリング)、家族療法、集団療法、薬物療法、社会参加トレーニング、ひいては、スピリチュアルレベルの癒し(裡なる真の主体性の育成)を、統合促進するいのちの場が、ここ「いのちの森水輪」にあるといっても過言ではありません。私は青少年育成センターに8年関わってきた今も、「いのちの森水輪」は進化し続けていると感じています。最後に、医学の父「ヒポクラテス」はこんな言葉を残しています。「人間は生まれ持った自然治癒力がある」「人間は自然から遠ざかるほど病気に近づく」「人間があらまの自然体で、自然の中で生活すれば120歳まで生きられる」と……。

2016年 いのちの大学講座 (学長 帯津良一・副学長 巽信夫) ~人生をよりよく生きる~

「養生塾 ~体の養生 心の養生 食の養生~」
講師 帯津 良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2016年 第3回 9月17日(土)~22日(木・祝)
第4回 11月11日(金)~16日(水)

「いのち学」
講師 帯津 良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2016年 第3回 9月17日(土)~22日(木・祝)
第4回 11月11日(金)~16日(水)

「生老病死のホメオパシー講座」
講師 帯津 良一 先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2016年 7月22日(金)~25日(月)

「直感力講座~本物とは何かを見極める力~」
講師 細金 勝治 先生
2016年 第4回 9月24日(土)~25日(日)
第5回 11月5日(土)~6日(日)

【参加者の感想文】常に自分の内面を見つめ、客観視し続け、自分が行動するたびに、自問自答をすることが、心を調和した状態に近づけていくことだと学びました。(N.A)

「気功合宿」
講師 中 健次郎 先生 (気功家・鍼灸師)
2016年 8月10日(水) 前泊
8月11日(木)~15日(月)
8月16日(火) 後泊

「心の探求 ~般若心経の真髓をひもとく~」
講師 宮島 基行 先生
(高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者)
2016年 8月26日(金)~28日(日)

「心の病とやさしい心理学」
講師 井上 弘寿 先生 (精神科医)
2016年 9月2日(金)~3日(土)

「脳と心の勉強会」
講師 久間 祥多 先生 (脳神経外科医)
2016年 10月29日(土)~30日(日)

「集中内観セミナー」【随時開催】
面接 塩澤 研一 (日本内観学会会員)

「リーダーシップセミナー」【随時開催】
講師 塩澤 みどり (いのちの森文化財団代表理事)

「青少年育成・自立支援個別相談事業」【随時対応】
相談者 塩澤 みどり (いのちの森文化財団代表理事)
アドバイザー 巽 信夫 (前信州大学医学部助教授)

「いのちの森の学校」【随時受入】

「シーズンチャレンジボランティア」【随時開催】
長野市社会福祉協議会主催のサマーチャレンジボランティアへなどの協力、田んぼ&自然農体験ボランティア
※詳細はお問い合わせ下さい
いのちの森文化財団事務局 TEL 026-239-0010
※日程は変更になることがあります

「青少年公開講座」
【2016年】
7月2日 稲盛和夫盛和塾生 八頭司正典 先生
(丸松セム株式会社 取締役会長)
大盛況にて終了しました。



経営者の皆さまの前でも立派にソウラン節を披露しました!

8月15日 中 健次郎 先生 (気功家)
8月26日~28日 宮島 基行 先生
(高野山真言宗阿闍梨)

9月2日~3日 井上 弘寿 先生 (精神科医)
9月24日~25日 細金 勝治 先生
(感覚認知学研究科)

10月29日~30日 久間 祥多 先生
(脳神経外科医)

11月5日~6日 細金 勝治 先生
(感覚認知学研究科)